



## Metals Focus – Precious Metals Weekly

貴金属ウィークリー 第176号 2026年5月22日

### プラチナ

今年は4年連続の供給不足、ファンダメンタルズの逼迫とゴールドの勢いが価格をサポート

### パラジウム

需要が供給を上回り、電動化進むも供給不足が続く

### ロジウム

ガラス需要の回復と供給の制限で市場は逼迫、価格上昇

### イリジウム

堅調な需要と鉱山生産の減産で市場は供給不足

### ルテニウム

AI-関連の需要増が化学需要の低迷を補い、高い価格相場を維持

## 『Platinum Group Metals Focus 2026』発表

ロンドンでのプラチナウィークの開催に合わせ、PGM産業に関する我々の年次レポート『Platinum Group Metals Focus 2026』が発表された。2017年から2025年までの需給統計と2026年の詳細な予測をカバーする。

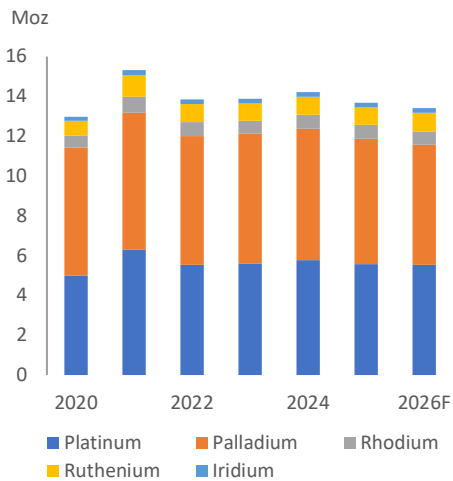
### 供給不足の継続と投資資金の流入でPGM 価格が上昇

数年間のレンジ相場を経た後の2025年は、PGMにとって決定的な転換点となった。地政学リスクの高まりと重要鉱物を戦略的な国家安全保障の手段とする動きを背景に、PGMの5つのメタル全ての価格が大きく上昇した。それを支えたのが現物の逼迫、投資家の強い関心、そして貿易政策や物資確保目的の戦略的な政策がもたらす影響への懸念などだ。

2025年の鉱山生産は縮小が続いた。南アフリカでは各地で洪水の被害が出て生産が中断し、北米ではスティールウォーター・ウエスト鉱山が一時的な操業休止に追い込まれたことなどが原因。プラチナの鉱山生産は前年比4%減って174.2トン、パラジウムの鉱山生産も同様に195.9トンに減った。一方で、PGMスクラップが増えたことでリサイクル供給は増え、鉱山供給の減産を一部補った。

自動車触媒のリサイクルは、中国で廃車奨励策が延長されたことや、過去2年間で急激にリサイクル量が減った米国で回復したことなどが支えた。宝飾品スクラップも中国で下半期に在庫処分が進み、リサイクル量が増えた。

## 5E の鉱山総供給



出典: メタルズフォーカス

メタルズフォーカスPGM部門のディレクター Wilma Swarts のコメントを以下で紹介したい。「自動車の3E PGM(プラチナ、パラジウム、ロジウム) 需要は2% 減って370.1トンになり、半導体不足問題が起こった2022年以降で初めて12Moz(373.2トン)を割った。普通乗用車生産は3%伸びたが、増えたのはEVでマーケットシェアは16% になった。」さらに続けて、「3E PGMの需要動向にとっての焦点は引き続き電動化のペースとなるだろう。2025年の時点でも、エンジン車とハイブリッド車が普通乗用車生産の大部分ではあったが、EVの普及は確実に進んでいる。その一方で、著しい変化が見られたのは投資家の動向だった。2025年は戦略的な在庫確保、ゴールド価格上昇の追随、現物のファンダメンタルズや逼迫などでプラチナの再評価が進んだ。2026年はこのような背景とともに、米国・イランの紛争が長期化するリスクが価格形成に影響するだろう。」

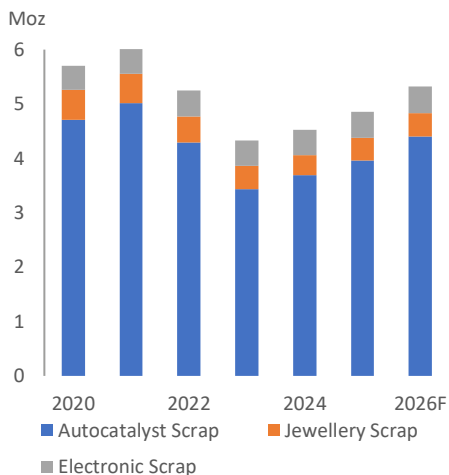
2025年のプラチナ宝飾品の需要は前年の勢いを保ち、ゴールド価格の高騰を受けて製造業者がプラチナにシフトしたことから10% 伸びて9年ぶりの高い水準となる68.4トンに達した。工業需要も全般的に好調で、電子材需要は AIブームに支えられ、PGM全体で8%伸びて40.4トンになった。化学産業では、ナイロンの原料となるカプロラクタムの製造に使われるルテニウム、プラスチックの原料生産に使われるパラジウムの需要が中国で増え、PGM全体の需要が3%伸びて59.1トンとなった。また、2025年は水素燃料にとっては節目の年だったことを受け、水素素関連のPGM需要は76%増えて3.0トンになった。特に成長が著しかったのが個人投資家の投資需要で、96%増えて12.6トン、世界の需要の60% を中国の投資家が占めた。

### 2026年はPGMの5つのメタル全てが供給不足に

2026年はPGM市場全体で現物の供給不足が続くだろう。しかし、価格を動かすのは需給バランスだけではなく、投資資金の流れ、取引所在庫の動き、政策的な介入なども大きく影響を及ぼすだろう。6E(5Eとゴールド)全体の鉱山生産は、ロシアとカナダの副産物生産が減るため、前年よりさらに2.2%減って432.3トンになる予測だ。リサイクル供給は、廃車奨励政策や国内での精錬処理の優遇策などに支えられて、自動車触媒のリサイクルが11% 増え、プラチナ、パラジウム、ロジウム合わせて138.6トンとなる予測。

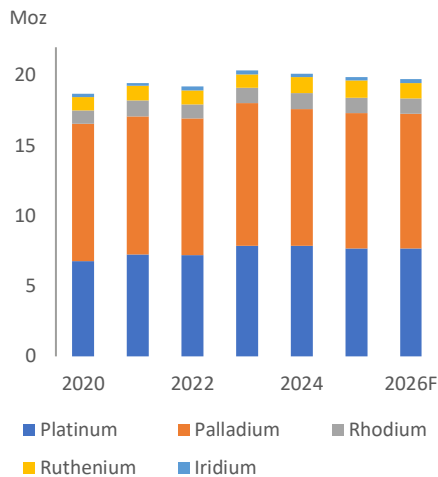
プラチナは4年連続の供給不足(9.7トン)になる予測で、地上在庫は279.9トンに減るだろう。2025年は広州先物取引所(GFEX)でのプラチナ先物取引やその他の資金流入に支えられ、プラチナ価格が急騰したが、2026年はそのまま高値圏で推移し、年間平均価格は2190ドル(前年比+71%)の予測。一方パラジウムは、5年連続の供給不足(11.7トン)になるものの、投資家の買い意欲が限られるため、平均価格はプラチナを下回って1570ドル(前年比+37%)になるだろう。

## 分野別リサイクル供給



出典: メタルズフォーカス

## メタル別の需要



出典: メタルズフォーカス

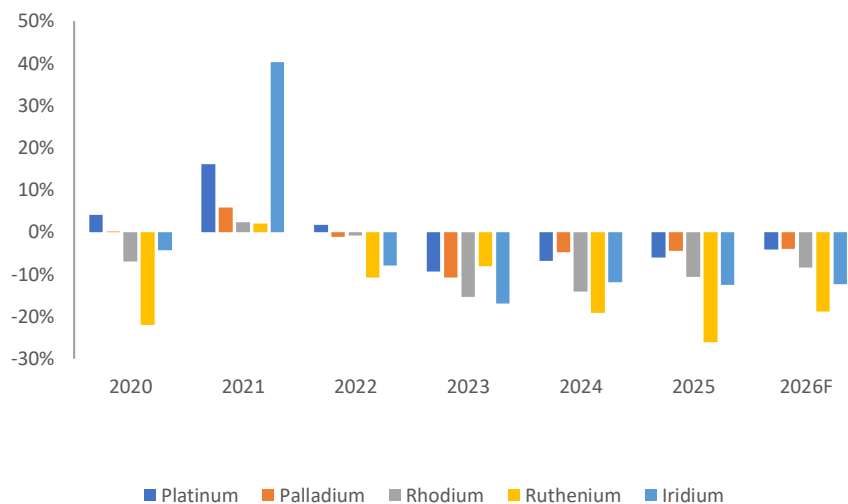
マイナー PGM については、ロジウムの地上在庫が需要の3ヶ月分未満にまで減少する可能性があり、それが 1万200ドル (前年比+62%) という予想価格を支える。イリジウムの需要は前年と変わらない 8.5 トンの予測だが、鉱山生産は安定しており、市場は1.08トンの供給不足になるだろう。現物の逼迫と低い流動性で平均価格は7200ドル(前年比+64%)の予測。ルテニウムは需要の分野によって動向が分かれる。ハードディスクドライブの需要はAI関連のデータストレージ需要が強くとメタルの需要を押し上げる一方で、化学産業の需要はカプロラクタムの生産能力増強が減速するため需要が減り、市場は供給不足(6.5トン)が続くだろう。2026年は価格変動が大きくなるだろうが、平均価格は前年の2倍の 1560 ドルと予測している。

2026 年の見通しに、PGM市場の地域化の加速を新たな視点として挙げたい。米国の通商拡大法 232 条に基づく宣言、中国の第15次5ヵ年計画にある戦略的物資の安全保障、EUの「重要材料法(Critical Raw Materials Act)」などが PGMの調達、処理、価格までを広く左右するようになるだろう。また、GFEX におけるプラチナとパラジウム先物取引の開始は、中国国内における価格形成と投資家アクセスに構造的な変化をもたらしており、それが世界の市場にも影響することになるだろう。

### メタルズフォーカスによる 2026 年の価格予想:

- プラチナ: 2190ドル (前年比+71%)
- パラジウム: 1570ドル (前年比+37%)
- ロジウム: 1万200 ドル(前年比+62%)
- イリジウム: 7200ドル (前年比+64%)
- ルテニウム: 1560ドル (前年比+114%)

## 需要に占める需給バランスの割合



出典: メタルズフォーカス